



これはいい!! わかりやすく、面白くて、合点がいく

評者 白石吉彦 おきどうぜん 隠岐広域連合立隠岐島前病院 院長

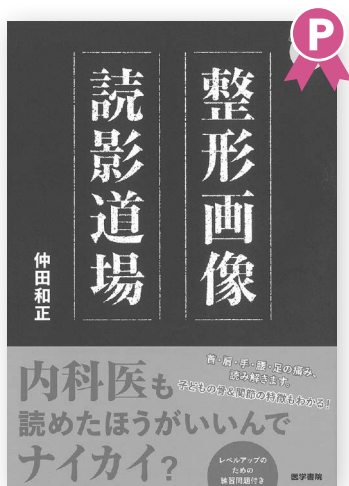
本書の著者は、ただの整形外科医ではない。ただ整形外科医になりたくて、なったのではないのです。著者は、地域で役に立つ医師になるためには、内科・小児科・整形外科が必要と感じ、内科・小児科はある程度独学で勉強できると考え、師につく必要のある外科系ということで整形外科医を選ばれた。

プライマリ・ケアの現場で一番多いのは運動器の訴えで、内科医にも整形外科の知識は必須である。ところが、既存の整形外科の教科書は膨大で、やたらと外国人の名前のついた徒手テストや所見が出てくる。覚えられない。目の前にやってくる運動器の訴えを、すべて整形外科医に丸投げするわけにもいかない。そんなジレンマのなかで仕事をしている医師は少なくないと思います。

「この本程度の知識があれば、さほど困らないと確信しております」。前書きに書かれた著者のこの力強い言葉から、後光がさして見えました。整形外科疾患のなかでも、特に需要の多いものに絞ってくれているのありがたい。よくある疾患に対して、できること・わかることだけきちんとやる。わからないことは適切に紹介すればよい。整形外科専門医の著者が無駄な知識を排除した、と言ってくれているのもいい。たくさんは覚えられないのです。そして、明日から役に立つ、というのがいい。第一線の臨床医に必要なのは実学なのです。X線写真1枚からわかることをきちんとわかるようにすることです。頸椎正面の棘突起がC7は楕円形が1つでC6以上は二股ではっきりしない、正常橈骨関節面は掌側に10°～25°傾いているが、Colles骨折では背側に向かう、なんてのは知っておくと読影のキーになります。受傷起点とX線上に現れる所見の機序を丁寧に解説してくれているのもいい。臨床医が大切にしている問診からX線にある答えにたどり着くのに、合点がいくのです。

そして、面白いのがいい。ピアノ教本バイエル(下巻)1～2をマスターした著者が繰り出す数々のダジャレ、ユーモア。そして「怒涛の反復」。妙に頭に残ります。日本中で「ニャニャ」(手関節掌屈はC7)、「肘をシチッと伸ばす」(肘伸展はC7)という声が聞こえてきそうです。大腿骨近位部骨折の特有の姿位を「大腿骨骨折音頭」と称し、自らを被写体にして表す著者の姿も一発で脳裏に刻まれます。英検1級・米国医師資格取得者の著者が、読み方や外国人名のいわれを解説してくれているのもありがたい。Bouchard 結節や、Chauffeur 骨折(橈骨茎状突起の骨折)のChauffeurは運転手とか、月状骨周囲脱臼のTerry Thomasの歯のすき間などなど。あと、けっこう困るのが、小児の骨。骨端線なのか骨折なのか、肘の骨化核の出現順や出現時期も「CRITEつれなくイレブン」で大助かり。意味の解説は本書で。

さらに、著者が撮りためた2,000枚のX線写真から「さらなるレベルアップのための画像読影練習問題」も出され、一歩突っ込んだ知識が得られるようになっています。内科医にわかりやすい整形本、総合診療医がさらにパワーアップ。この本、手に入れるしかないでしょ!



《ジェネラリスト BOOKS》 整形画像読影道場

仲田和正=著

定価: 本体 3,600 円 + 税
A5・164 頁 / 医学書院 / 2019
[ISBN978-4-260-03833-1]